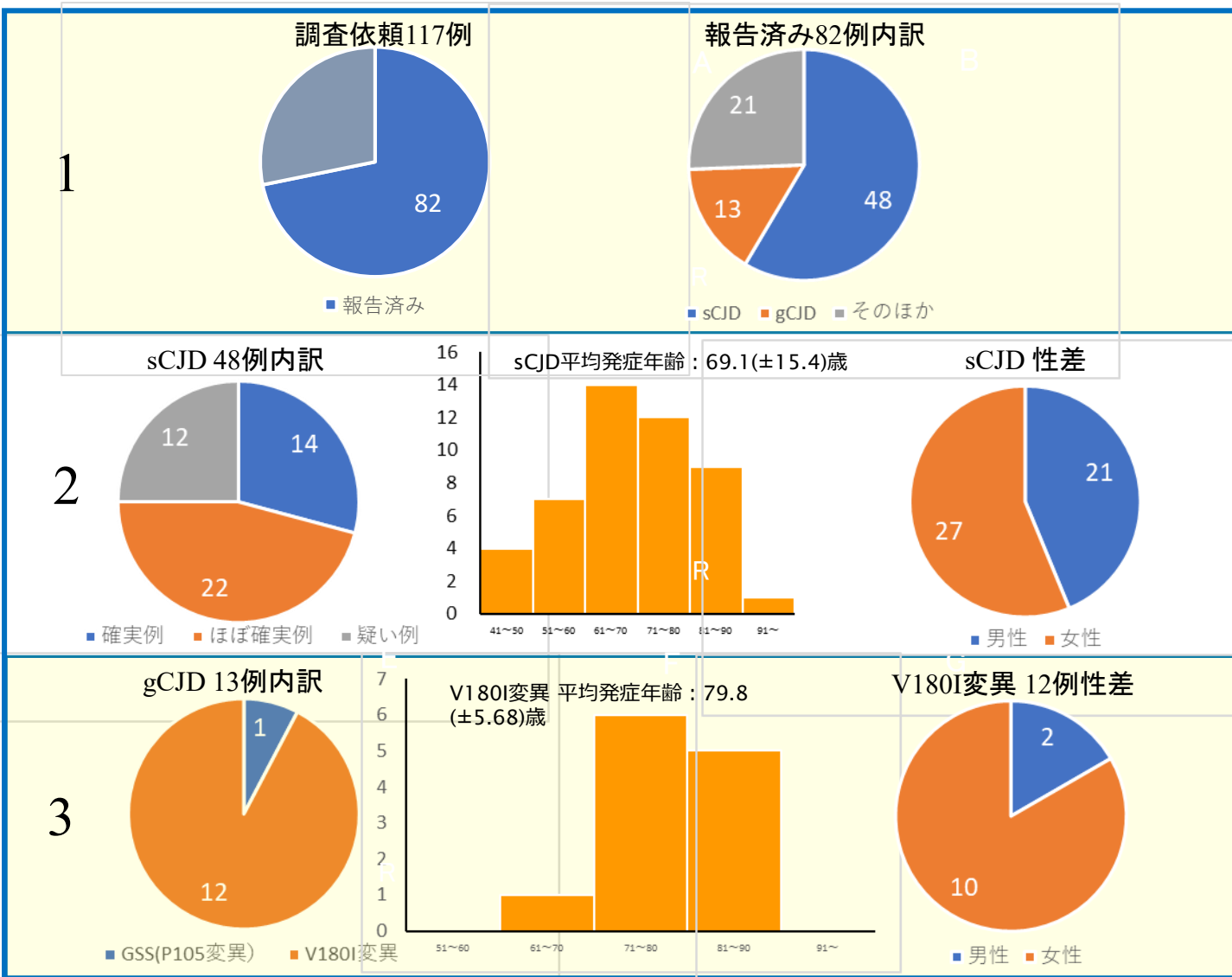


# 平成29年4月から令和2年2月までの愛知、岐阜、三重の3県におけるプリオン病サーベイランス結果

研究分担者: 愛知医科大学神経内科 道勇 学



## 解 説

1. 期間中117例の調査依頼があり、このうち、検討委員会において報告したのは82例。内訳は、sCJD 48例、gCJD 13例、プリオン病以外の症例 21例であった。
2. sCJD48例(確実例 14例、ほぼ確実例 22例、疑い例 12例)の平均発症年齢は69.1歳、男女比は男性21例(43.8%)、女性27例(56.3%)であった。
3. gCJD13例はGSS(P105L変異)1例、V180I変異12例。V180I変異症例は平均発症年齢79.8 (±5.68)歳で男性2例、女性10例であった。
4. その他21例の内訳は、てんかん3例、脳炎疑い2例、MSA・アルコール性精神障害・悪性症候群後遺症・脳血管障害・せん妄・橋本脳症・低血糖脳症・神経核内封入体病・リンパ腫様肉芽腫症・血管内大細胞型B細胞性リンパ各1例、原因不明3例であった。